

令和8年度 大井第一小学校 学校経営方針

大井第一小学校 校長 吉川 信次

1. 本校の教育目標

未来を切り拓く力が育つ学校		
考える子 自ら課題を見つけ判断し、豊かに実現しようと学ぶ子	思いやりのある子 困難にくじけず仲間と共に挑戦し、高め合い、絆を深める子	健康な子 粘り強く積極的に行動し、知識を生きる知恵にできるたくましい体をもつ子

本校は「高い学力」と「優れた規範意識と行動力」を誇る学校である。そして、開校151年の伝統とその歴史の中で培われてきた区内に誇れる校風や実績を守り発展させながら、上記の目標をかかげ、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指す。

2. 学校経営の基本方針

「私が育てる」から「私たちが育てる」学校

教育目標の具現化を図るためには教職員が一丸となって教育活動を進めていく必要がある。一人一人の個性や能力を発揮しながらチーム学校として子どもたちを育てていくことが大切である。また教職員だけでなく保護者、地域の方々など協力し合いながら教育活動に取り組むことで子どもはより豊かに成長していく。

(1) 「私たちが育てる」学校、開かれた学級

- ・学年教科分担任制（教材研究をする教科を学年4人で分担任する）を行う。一人一人が担当する教科を決め重点的に教材研究を行い、学年会で検討・確認する。若手にとっては任せられることで大きな学びとなる。また教員一人一人の負担感も減る。
- ・学年会の位置付けを明確にし、週1回（木曜日）実施する。学習面・生活面共に学年で定期的に行うことで学級の課題を抱え込まないようにする。学年での打ち合わせが研修（OJT）の場になる。学年主任は見通しを立て30分程度で行えるようにする。また、高学年は特に専科教諭が計画的に参加できるようにする。
- ・探究的な学び（市民科一貫プラン・生活科）は課題ごとにグループをつくる。生活科・市民科の授業が学年で実施できるように時間割を工夫する。学年間で子どもたちが交流できるような学習を意図的に設ける。
- ・4年生以上は担任による教科担任制（社会科・理科）を実施する。3年生以下は1学期1単元の交換授業を計画的（7月、11月、2月）に実施する。交換授業を行うことでOJTにつながる。年次研修と関連させてもよい。

(2) 子どもに開いた、楽しい、生きがいのある学校

- ・子どもの人権尊重と生命尊重について正しく認識し、全ての子どもがその子らしく人間として尊重されるよう努める。
 - ◇優しさと厳しさのある学校――優しく受け止め、基礎基本はきちんとした躰
 - ◇受容・共感・肯定のある学校――真面目、温かさ、安心、自信、自立心
 - ◇思いやりと協力のある学校――認め合い、高め合い、助け合い、ゆずり合い
 - ◇豊かな発想と工夫のある学校――関心、意欲、工夫、創造性
 - ◇充実と活力のある学校――自己努力、自主性、目的意識、行動力、満足感
 - ◇友達と遊びのある学校――人間性・社会性、思いやり、心の安らぎ、発散
 - ◇心と知識・科学の調和した学校――国際理解・環境・情報教育、ボランティア、友好

(3) 教職員に開き、協働して活動する学校

- ・教員一人一人のよさを認め合いながら高めていく教員集団をめざす。教科の専門性や持ち味を生かし合いながら成果を出していく学校とする。そのため、知恵の出し合い、アイデアの提案、技術の交流など、教職員相互が「開く」よう努力する。

(4) 保護者に開いた、親しみのある学校

- ・学校だより、学年・学級だより、保健だより、ホームページ、行事の写真、校内掲示等の充実
- ・保護者会等の運営・充実、PTA・おやじの会・保護者ボランティア、地域との協力、意見や要望・苦情への誠実な対応、保護者アンケートの実施と活用

(5) 地域に根ざした学校

- ・学校外の授業協力者の参加・協力要請（各種ボランティア）：「地域は先生」
- ・地域の活用と開発：「地域は教室」
- ・地域の歴史・文化・産業・生活等を学ぶ：「地域は教材」

3. 教職員の基本姿勢

時を守り、場を清め、礼を正す

(1) 子ども第一主義

子どもにとって居心地のよい生活環境・学習環境を整える。

- ・子ども自身に「自分が大切にされている」という実感があるからこそ他人を大切にできる。
- ・「心の安定」無くして「生活の安定」や「学力の向上」は無い。
- ・大一ABCは教師の意識が児童に反映される。年間を通して教師自らが意識する。

「いじめ・いじわる・いやがらせのない学校」を心がける。

- ・言葉で言うて分かるぐらいなら教師は不要である。小さな変化を逃さない教師でありたい。
- ・家庭や地域にも「子育て協同責任者」と思ってもらえる関係を普段からつくっておく。

子ども一人一人が主体的に活躍できる場を工夫する。

- ・一人一人の個性・特性に応じたステージを用意する。
- ・教育活動は様々な刺激を与えて「意欲の扉」を開き、可能性を引き出す営みである。
- ・子どもに任せる勇気を持ち見守る姿勢を大切にす。 (フィードバックは重要)

「分かる」「できる」「楽しい」つまり「学びがい」のある授業を実践する。

- ・45分の授業は「教師の生命線」である。
- ・「学習指導要領（品川区立学校教育要領）→年間指導計画→週案簿（週の計画）→1単位時間の計画→実践→振り返り」の積み重ねが、「魅力ある授業」の実践力を高める。

温かい人間関係を基盤とした厳しさを備える。

- ・子どもに、「自分を成長させてくれる貴重な人だ」と思われる存在になる。
- ・社会のルールに反する行為や態度を毅然と叱ることが理解される関係をつくる。
- ・行為を罰し人格は否定しない。叱ることはその子どもへの期待の表れである。

子ども一人一人のよさをいつでも10個言える関係を作る。

- ・「指導→評価→指導・・・」の過程に見える子どもの変容を見逃さない。
- ・記憶に頼らず、子どもの変容、変化のきっかけを記録する。
- ・「子どものよさ」を語る教師は子どもにも保護者にも地域にも信頼される。
- ・子どもを変えようとするのではなく、教師の見方を変えることで子どもも変わっていく。

(2) 子どもの「人間のモデル」としての教職員

当たり前のことを当たり前でできる。

- ・市民の信託に応え、公教育を担う教育公務員としての自覚（服務規律の遵守）を堅持する。
- ・一市民、一社会人としてのモラルやマナーを備える。

教職員は最大の教育環境であることを自覚する。

- ・よくも悪くも子どもへの影響は大きいことを自覚する。
- ・服装、言葉遣い、言動など、子ども・保護者・地域もみんなが注目している。

大井第一小学校での経験が「小学校のイメージ」を作ることを自覚する。

- ・自分の小学校時代の経験が、「小学校像」になる。
- ・〇〇先生のイメージが、「小学校の教師像」になる。

豊かな人権感覚を備えた人間としてのモデルとなる。

- ・「21世紀は人権の世紀」。教育者として果たす役割を自覚する。
- ・「あいさつ」は相手を大切にす最初の行為である。教職員が範を示す。

(3) 指導力、授業実践力の向上

校内研究に勝る研修の場はない。目の前の子どもの姿に学ぶ。

- ・授業研究を中心に、自ら学び、子どもと共に、同僚と共に成長する。
- ・授業研究の苦労は、「信頼される教師」を担保することにつながる。

区教育会をはじめとする各種研修会について積極的に参加する。

- ・「外」の情報、「力ある実践」を学ぶ機会を重視する。
- ・研究授業を大井第一小学校で実施するときには校内協力体制を工夫する。
- ・令和8年度全国小学校国語教育研究発表会場となる。研究内容を校内研究会と関連させることで、国語科指導について研鑽を深めていく。また、月1回「こくご学び場」を設定し、国語科授業の相談ができる体制を整える。

日々の職務を通して学ぶ姿勢を大切にする。

- ・校務分掌ごとに主幹・主任、各チームを中心とした日常的な研鑽を行う。

- ・少人数担当、専科担当、養護教諭、講師等と学級担任の緊密な連携と相互研鑽を行う。
- ・「連携」は互いを助け、高め合う取組である。
- ・学年会や教科担任制を通して、子どもを多面的に捉え指導の手立てを多様にする。
- ・課題の抱え込みは問題解決を困難にする。

(4) 開かれた学校と家庭・地域との行動連携

聴く耳をもち、相談され、頼られる存在となる。

- ・教育相談的な対応の知識と技能を身に付ける。(相談後の報告が大切)
- ・学校公開と授業参観は本校の教育活動、子どもの実態を理解してもらう絶好の機会である。
- ・保護者会で学校・学年・学級を語る。教職 1年目～3年目は学級を語り、5年目からは学年、10年以上たつと学校を語れるようになる。

家庭との情報共有は迅速・的確・誠実に行う。

- ・各種便りでの定期的な連絡・報告を行う。
- ・「最初の対応が全てを決める」。事故等の連絡は迅速・誠実に対応する。

家庭・地域の声を学校改善、学級改善の糧とする。

- ・学校評価を意識した経営、指導、実践を心掛ける。
- ・「言っても仕方ない」と思われたら「支えてもらえる関係」は終わる。

「心の教育」は家庭・地域などの「教育」の全ての場で行う。

- ・具体的な理解啓発の機会としての市民科授業地区公開講座を活用する。
- ・豊かな心の育成のための関係者・活動をコーディネートする力を高める。

(5) 自己の健康管理と経験の深化・拡大を通しての自己変革

健康管理を怠らない。

- ・心身の健康管理は教育の充実・発展の基盤であり基本である。
- ・生涯を走りぬくために「今、どうあるべきか」を考えて自己管理を行う。

「総合的な人間力」を身に付け、それを高める経験を積む。

- ・学校外での経験も豊かにしたい。
- ・多様な経験は視野を広げ、人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法などを豊かにする。
- ・「子どもにとっての重要なモデル」に応えるために、自らが成長・変革していく力を備える。